

ふりがな

わたなべ たかし

氏名

渡辺 尚志

1. 学歴

- 1981年3月 東京大学文学部国史学科卒業
1983年3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻課程修士課程修了
1988年3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻課程博士課程単位取得退学
1995年 博士（文学・東京大学）

2. 職歴・研究歴

- 1988年4月 国文学研究資料館助手
1993年4月 一橋大学社会学部助教授
2000年4月 一橋大学社会学研究科助教授
2001年4月 同 教授
2021年4月 一橋大学名誉教授

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

社会史方法論、日本社会史総論

(b) 大学院

日本社会史Ⅰ、日本社会史Ⅱ

(B) ゼミナール

学部後期、大学院

4. 主な研究テーマ

日本近世村落史

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

単著

- 『日本近世村落論』（岩波書店、2020年）
- 『海に生きた百姓たち』（草思社、2019年）
- 『殿様が三人いた村—葛飾郡幸谷村と関家の江戸時代』（崙書房出版、2017年）
- 『江戸・明治 百姓たちの山争い裁判』（草思社、2017年）
- 『幕末維新期の名望家と地域社会』（同成社、2014年）

- ・『百姓たちの水資源戦争 江戸時代の水争いを追う』（草思社、2014年）
- ・『近世百姓の底力—村からみた江戸時代』（敬文舎、2013年）
- ・『日本人は災害からどう復興したか 江戸時代の災害記録に見る「村の力」』（農山漁村文化協会、2013年）
- ・『武士に「もの言う」百姓たち 裁判でよむ江戸時代』（草思社、2012年）
- ・『百姓たちの幕末維新』（草思社、2012年、2017年に草思社〈草思社文庫〉から再刊）
- ・『村からみた近世』（校倉書房、2010年）
- ・『百姓の主張—訴訟と和解の江戸時代』（柏書房、2009年）
- ・『百姓たちの江戸時代』（筑摩書房〈ちくまプリマー新書〉2009年）
- ・『東西豪農の明治維新 神奈川の左七郎と山口の勇蔵』（塙書房、2009年）
- ・『百姓の力—江戸時代から見える日本』（柏書房、2008年、2015年にKADOKAWA〈角川ソフィア文庫〉から再刊）
- ・『豪農・村落共同体と地域社会—近世から近代へ』（柏書房、2007年）
- ・『惣百姓と近世村落—房総地域史研究—』（岩田書院、2007年）
- ・『近世の村落と地域社会』（塙書房、2007年）
- ・『遠くて近い江戸の村—上総国本小鬻村の江戸時代—』（崙書房出版、2004年）
- ・『浅間山大噴火』（吉川弘文館、2003年）
- ・『近世村落の特質と展開』（校倉書房、1998年）
- ・『江戸時代の村人たち』（山川出版社、1997年）
- ・『近世の豪農と村落共同体』（東京大学出版会、1994年）

編著（共編著を含む）

- ・『相給村落からみた近世社会 続』（岩田書院、2021年）
- ・『藩地域の環境と藩政—信濃国松代藩地域の研究VI—』（鈴木直樹氏と共編、岩田書院、2020年）
- ・『近世村の生活史』（小酒井大悟氏と共編、清文堂出版、2020年）
- ・『生きるための地域史』（中村只吾氏と共編、勉誠出版、2020年）
- ・『藩地域の村社会と藩政—信濃国松代藩地域の研究V—』（岩田書院、2017年）
- ・『移行期の東海地域史』（勉誠出版、2016年）
- ・『アーカイブズの現在・未来・可能性を考える』（法政大学出版局、2016年）
- ・『生産・流通・消費の近世史』（勉誠出版、2016年）
- ・『相給村落からみた近世社会』（岩田書院、2016年）
- ・『週刊 新発見日本の歴史 34 村人は豊かだったのか』（朝日新聞出版、2014年）
- ・『藩地域の農政と学問・金融—信濃国松代藩地域の研究IV—』（福澤徹三氏と共編、岩田書院、2014年）
- ・『東北の村の近世』（東京堂出版、2011年）
- ・『近世後期大名家の領政機構—信濃国松代藩地域の研究III—』（荒武賢一郎氏と共編、岩田書院、2011年）
- ・『畿内の村の近世史』（清文堂出版、2010年）
- ・『藩地域の政策主体と藩政—信濃国松代藩地域の研究II—』（小関悠一郎氏と共編、岩田書院、2008年）
- ・『畿内の豪農経営と地域社会』（思文閣出版、2008年）
- ・『近代移行期の名望家と地域・国家』（名著出版、2006年）
- ・『千葉県の歴史 資料編 近世1(房総全域)』（共編、千葉県、2006年）
- ・『1783 天明浅間山噴火報告書』（中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」、2006年）
- ・『藩地域の構造と変容—信濃国松代藩地域の研究—』（岩田書院、2005年）
- ・『千葉県の歴史 資料編 近世5(下総1)』（共編、千葉県、2004年）

- ・『中世・近世土地所有史の再構築』（長谷川裕子氏と共編、青木書店、2004年）
- ・『地方名望家山口左七郎の明治維新』（大学教育出版、2003年）
- ・『新体系日本史3 土地所有史』（五味文彦氏と共編、山川出版社、2002年）
- ・『幕末維新期萩藩村落社会の変動』（岩田書院、2002年）
- ・『千葉県の歴史 資料編 近世4(上総2)』（共編、千葉県、2002年）
- ・『近世地域社会論——幕領天草の大庄屋・地役人と百姓相続』（岩田書院、1999年）
 - ・『千葉県地域史料現状記録調査報告書第3集 茂原市藤乗家文書2』（千葉県、1997年）
- ・『千葉県地域史料現状記録調査報告書第2集 茂原市藤乗家文書1』（千葉県、1996年）
- ・『新しい近世史4 村落の変容と地域社会』（新人物往来社、1996年）
- ・『近世米作単作地帯の村落社会——越後国岩手村佐藤家文書の研究』（岩田書院、1995年）
- ・『近世房総地域史研究』（吉田伸之氏と共編、東京大学出版会、1993年）

共著

- ・「江戸時代、出羽国村山地方の百姓たち」、荒武賢一朗ほか編『古文書が語る東北の江戸時代』吉川弘文館、2020年、211-246頁
- ・「山野からみた明治維新」、荒武賢一朗編『近世日本の貧困と医療』古今書院、2019年、54-77
- ・「水からみた江戸時代」、林大樹ほか編『水と社会』東京大学出版会、2019年、17-34
- ・「近世の村とは何か」、水林彪ほか編『法と国制の比較史』日本評論社、2018年、483-510
- ・「近世地域社会研究の可能性」、東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』岩波書店、2017年、165-182
- ・「土地と日本人」、萱野稔人編『現在知 Vol.2 日本とは何か』NHK出版、2014年、245-267
- ・「近世の村」、大津透ほか編『岩波講座日本歴史 11 近世2』岩波書店、2014年、141-176
- ・「幕末地域社会の変貌」、明治維新史学会編『講座明治維新7 明治維新と地域社会』有志舎、2013年、333-60
- ・「地域有力者と周辺社会」、「本小鬻村の庄屋と惣百姓」、「近世の離婚」、『『千葉県の歴史 通史編近世2』千葉県、2008年、171-189、224-249、250-252
- ・「天明三年浅間山大噴火時の被災村落の復興過程」、江戸遺跡研究会編『災害と江戸時代』吉川弘文館、2008年、212-230
- ・「日本近世村落史からみた大塚共同体論」、小野塚知二・沼尻晃伸編『大塚久雄『共同体の基礎理論』を読み直す』日本経済評論社、2007年、97-128
- ・「上総の地域特性」、「近世の村と町」、『千葉県の歴史 通史編近世1』千葉県、2007年、99-124、531-552
- ・「組合と仲間」、福田アジオ編『結衆・結社の日本史(結社の世界史1)』山川出版社、2006年、56-68
- ・「十七世紀上野国三波川村における山論」、池上裕子編『中近世移行期の土豪と村落』岩田書院、2005年、297-314
- ・「村の世界」、歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座5 近世の形成』東京大学出版会、2004年、167-196
- ・「近世村落共同体に関する一考察」、藪田貫・深谷克己編『展望日本歴史 15 近世社会』東京堂出版、2004年
- ・『藤井寺市史第二巻 通史編二 近世』藤井寺市、2002年
- ・「大名家文書の中の「村方文書」」、高木俊輔・渡辺浩一編『日本近世史料学研究 史料空間論への旅立ち』北海道大学図書刊行会、2000年、493-519
- ・「元禄地震」ほか、『千葉県の歴史 資料編 近世2(安房)』千葉県、1999年、56-59、461-467、920-921
- ・「村の商家」、『寒川町史6 通史編 原始・古代・中世・近世』神奈川県寒川町、1998年、556-584
- ・「藤田五郎」ほか、『日本史広辞典』山川出版社、1997年

- ・「田中丘隅」、「三浦命助」、池享ほか編『日本の歴史を解く100人』文英堂、1995年、236-239、284-287
- ・「幕末の鉄座設立運動と由緒」、久留島浩・吉田伸之編『近世の社会集団 由緒と言説』山川出版社、1995年、233-263
- ・「南生実村（下総）「永代取極申印証之事」「永代取極議定書」」、『日本農書全集 63 巻 農村振興』農山漁村文化協会、1995年、81-161
- ・「雑穀・粉商売をめぐる江戸問屋仲間との争論」、「豪農下田家の江戸進出」、『田無市史 第三巻通史編』東京都田無市、1995年、461~477
- ・「安良城理論から学ぶこと」、安良城盛昭『日本封建社会成立史論 下』岩波書店、1995年、257-264
- ・「浅間山噴火」『岩波講座日本通史 14 近世4』岩波書店、1995年、339—353
- ・「各地域からどんな古文書が出てくるか」、「新田開発はどのように行われたか」、「飢饉は災害だけで起こるのか」、池享ほか編『日本の歴史を解く100話』文英堂、1994年、238-241、250-253、290-293)
- ・「近世後期の年貢関係史料について—下総国相馬郡川原代村を事例として—」、千葉歴史学会編『近世房総の社会と文化』高科書店、1994年、279~306
- ・「近世村落共同体をどうとらえるか」、歴史科学協議会編『歴史における家族と共同体』青木書店、1992年
- ・「農業と農間余業」第一~三節、「宗教」第二節の一部、『富士見町史』長野県諏訪郡富士見町、1991年
- ・「豪農論の現在」、『日本近世史研究事典』東京堂出版、1989年
- ・「村入用の研究史」、「村借」、「江戸と地廻り地域」、『日本歴史大系3 近世』山川出版社、1988年

(b) 論文

- ・「金原明善と天竜川の水防・治水」『静岡県地域史研究』10号、2020年
- ・「無年季的質地請戻し慣行を再考する」『日本歴史』864号、2020年
- ・「利水と治水からみた明治維新」『歴史学研究』990号、2019年
- ・「村から捉える〈明治維新〉」『埼玉県地域史料保存活用連絡協議会会報』45号、2019年
- ・「江戸時代の災害と村人の暮らし」『群馬文化』334号、2018年
- ・「上総・下総における旗本知行所と相給村落」『房総の郷土史』45号、2018年
- ・「農村指導者たちの江戸時代」『農業普及研究』44号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その1〕」『農業および園芸』92巻1号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その2〕」『農業および園芸』92巻2号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その3〕」『農業および園芸』92巻3号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その4〕」『農業および園芸』92巻4号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その5〕」『農業および園芸』92巻5号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その6〕」『農業および園芸』92巻6号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その7〕」『農業および園芸』92巻7号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その8〕」『農業および園芸』92巻8号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その9〕」『農業および園芸』92巻9号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その10〕」『農業および園芸』92巻10号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その11〕」『農業および園芸』92巻11号、2017年
- ・「村と百姓の江戸時代〔その12〕」『農業および園芸』92巻12号、2017年
- ・「海辺の村の近世」『中央史学』38号、2015年
- ・「江戸時代の浅間山噴火と復興への歩み」『東北学』3号、2014年
- ・「災害と生存」『人民の歴史学』200号、2014年
- ・「近世村落史研究の課題を考える」『歴史評論』731号、2011年

- ・「中世・近世移行期村落史研究の到達点と課題」『日本史研究』585号、2011年
- ・「明治初年の青年・山口左七郎」『自由民権』23号、2010年
- ・「近世・近代移行期の村と地域をどうとらえるか」『史海』56号、2009年
- ・「セイフティネットとしての村」『月刊自治研』598号、2009年
- ・「村方騒動から見た江戸時代の村」『房総史学』49号、2009年
- ・「近世・近代移行期の村をどうとらえるか」『歴史と文化』18号、2009年
- ・「近世村落史研究を拓げる 畿内村落の分析を通じて」『白山史学』43号、2007年
- ・「近世村落社会論 地域社会論を中心に」『日本歴史』700号、2006年
- ・「藩地域論と地域社会論」『歴史評論』676号、2006年
- ・「今、佐々木潤之介氏の幕末維新論とどう向き合うか」『人民の歴史学』164号、2005年
- ・「17世紀における土豪の土地所有の変化」『歴史学研究』774号、2003年
- ・「十八世紀前半の上総の村」『千葉県史研究』10号別冊、2003年
- ・「地域社会の関係構造と段階的特質」『一橋大学研究年報 社会学研究』39号、2001年
- ・「地域社会の関係構造と段階的特質」『歴史評論』599号、2000年
- ・「歴史学からみた明治維新」『一橋論叢』121巻4号、1999年
- ・「十七世紀後半における『惣百姓』について—上総国長柄郡本小轡村を事例として」『千葉県史研究』7号別冊、1999年
- ・「近世・近代移行期村落社会研究の現状と課題 近世史研究者の立場から」『自由民権』10号、1997年
- ・「近世村落についての覚書」『一橋大学研究年報 社会学研究』35号、1996年
- ・「日本近世の土地所有と土地契約」『近現代史研究会会報』28号、1996年
- ・「近世の村と寺 紀伊国伊都郡境原村を事例として」『国立歴史民俗博物館研究報告』69集、1996年
- ・「近世の文書目録」『千葉県史研究』2号、1994年
- ・「草莽の志士」型豪農と村・地域」『一橋論叢』111巻2号、1994年
- ・「近世村落の身分階層構造」『部落問題研究』123輯、1993年
- ・「幕末維新时期における村と地域」『史料館研究紀要』24号、1993年
- ・「幕末維新时期における村と地域」『歴史学研究』638号、1992年
- ・「幕末維新时期村落論への視角」『論集きんせい』14号、1992年
- ・「日本近世における地域」『歴史科学と教育』10号、1991年
- ・「農民的土地所持と村落共同体」『史料館研究紀要』21号、1990年
- ・「幕末・維新时期における農民と村落共同体」『歴史評論』475号、1989年
- ・「相給知行と豪農経営」『論集きんせい』11号、1989年
- ・「近世農民の生業と生活」『史料館研究紀要』20号、1989年
- ・「入会地分割と村落共同体」『人民の歴史学』98号、1988年
- * 「関東農民の江戸進出」『関東近世史研究』23号、1988年
- * 「信州諏訪郡諸村における村借について」『信濃』40巻2号、1988年
- * 「近世村落共同体に関する一考察」『歴史評論』451号、1987年
- * 「天明三年浅間山大噴火による被災村落の復興過程」『信濃』39巻2号、1987年
- ・「関東における豪農の江戸進出と商圈」『歴史科学と教育』4号、1985年
- ・「近世の江戸と関東農村」『論集きんせい』9号、1984年
- ・「近世後期関東農村における豪農層の江戸進出」『千葉史学』1号、1982年

B. 本研究科着任後の研究活動（着任 1993 年）

（a）国内外学会発表

* 「近世・近代転換期における村と地域」、東北史学会大会、2020 年 10 月 3 日

* 「近世村落史研究を拓げる」、白山史学会大会、2006 年 11 月 25 日

（b）国内研究プロジェクト

日本中世・近世における検地と村請に関する総合的研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤 (B) 2014 年 4 月 - 2018 年 3 月

中世・近世農・山・漁村の生業交流に関する研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤 (B) 2009 年 4 月 - 2013 年 3 月

戦国末～明治前期畿内村落の総合的地域研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤 (B) 2003 年 4 月 - 2006 年 3 月

幕末維新时期村落社会の比較研究

科学研究費助成事業 1994 年 4 月 - 1995 年 3 月

6. 学内行政

（B）学内委員会

大学院教育専門委員、学部教育専門委員、教養教育専門委員、入試管理委員、教職課程専門委員、図書館委員

7. 学外活動

（a）他大学非常勤講師など

東京大学、大阪大学、名古屋大学、東北大学、山口大学、東洋大学で非常勤講師を勤める

（b）所属学会および学術活動

歴史学研究会（2002.6-2004.5 事務局長）、日本史研究会、歴史科学協議会、史学会、地方史研究協議会ほか

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

大学入試センター出題委員（日本史）

中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会「1783 天明浅間山噴火」部会責任者

日本歴史学協会常任委員（2016-2018）

国文学研究資料館学術資料委員会委員（2019.4-2021.3）

9. 一般的言論活動

2014 年 6 月 BS・TBS「謎解き！江戸のススメ」出演

2017 年 4 月 大阪朝日放送「国難災害」に出演